

MAX STUDY GROUP

Vol. 5 2016年4月2日

第5回 レポート

A テーマ設定

今回も前回に引き続き、グローバルをテーマに行いましたが、その中でも「グローバル時代に求められる人材像」に焦点を当てました。巷では「グローバル人材の育成」が学校、大学、企業から緊急課題として叫ばれていますが、それはいったいどのような人材なのでしょう。今回はそのグローバル人材像の定義とあわせて、これからのグローバル社会に必要なスキル、力を議論しました。

今回のテーマ、議論は本ウェブサイトの「[グローバル人材を定義する](#)」という内容がベースになっていますので、そちらも合わせてご覧ください。

B コンテンツ

1 アイスブレイキング

今回のアイスブレイキングは私が担当をしました。

ビンゴを使った自己紹介のアイスブレイキングを用意しました(新しく勉強会に参加される方が増えたので、あえてこのタイミングで自己紹介を入れてみました)。紙に3×3のビンゴの表を作り、そこに1~30の中から数字をランダムに入れていきます。右の表のような感じですね。

3	14	7
18	9	27
21	30	1

このビンゴの紙で、タテ、ヨコ、ナナメ、どれか1列選んで、その並んだ3つの数字を使って自己紹介を行います。ただし、自分のビンゴの紙を使ってやるではありません。ペアを組み、相手と紙を交換してやります。30秒準備タイム、そのあと1分で自己紹介をします。1セット終わったら、相手の紙を持ったままペアを変え、また紙を交換して同じことを行います。これを4ターン行いました。

その趣旨を伝えた時は、参加者の皆さんも「え？」って顔をされていましたが、やってみると意外とできるもんです。いろいろな自分の情報を引っ張り出して、こじつけて、なんとかやっていました。

最後に、応用編として1ペアだけ、3つの数字を使って相手を紹介するという応用編をしてもらい、終わりにしました。

2 アクティビティ: これからの時代に求められるもの

まずそれぞれに3枚紙を配り、1枚につき1つのキーワードを書いてもらいました。

「これからの時代に求められる力、スキル、マインド」というテーマで、
ご自身が大切だと思うものを3つ書いてください。

書き終わったところで、以下の①～③の指示を出しました。

- ① 3つのカードのうち、優先順位が低いものを泣く泣く1つ決めて、部屋の奥にあるテーブルの上に手放してください(カードが2つになります)。
- ② 次に、他の人が同じように机の上に手放したカードから、どれか1つ選んで手元に補完してください(カードが3つになります)。
- ③ その次、だれか1人とペアを組み、相手と交渉しながらカードを1つ交換してください。(単に交換するのではなく、自分が大切に思うカードが手元にそろそろように交渉します)
- ④ 上記①～③を3回繰り返しつつ、自分が大切だと思う力、スキル、マインドを再構築してください。



3 ターン終了したところで、最後の自分に残ったカードを改めて説明します。またペアでお互いの持つカードの共通点を探し、それを表すキーワードを決めました。



このアクティビティは、カードを捨てる&相手と交渉するというのが味噌になります。カードを取捨選択する作業の中で「何が大切なんだろう」と意識化せざるを得ません。もちろん、優先順位を付ける必要はなく、「全部大切」ということでも良いのかもしれません。ただ、普段はなんとなく並列していることも、このような作業を通して、より意識的に考えるということは意味があると感じます。また、この後、グローバル人材とは何か、それを話していくのですが、この活動が「勉強会テーマ」のブレインストーミングになるように今回は設定しました。

3 アクティビティ: グローバル時代に求められる人材

次に、本題「グローバル人材とは何か」という議論に入っていきます。「グローバル人材育成」などと頻繁に叫ばれますが、それはいったいどんな人材であり、どんな力やマインドを持った人材なのかをクリアに

しようということです。

まず、この問いですね。

グローバル人材ってどういう人材ですか。

これについては、こちらのほうで単純な設定をしました。単純だけど、本質的な定義だと言えます。

グローバル人材 = グローバル社会の中で、どこにいても(国内でも海外でも)自分のパフォーマンスが下がらない人、むしろワクワクしてグレードアップしてしまう人

そして、次にこれです。アイスブレイキングとほとんど同じですね。

グローバル時代を生きていく上で必要だと思う力、スキル、マインドは何でしょうか。

手順は以下の通りです。

- ① 全員にポストイットを配布し、まずは個人ワークとして、各自思いっただけポストイットにキーワードを書いていく。(約3分)
- ② グループでシェアをし、各自が必要だと思うものを説明しながら、キーワードをコンセプト別、タイプ別に分けて、より共通点の見出せる言葉を探していく。どのようなコンセプトに分けていくかなどもグループで議論する。
- ③ 出てきたコンセプトカテゴリーにあえて順位を付けて、発表をする。

具体的な議論については、内容を省きますが、各グループ面白い議論がなされていました。中には「自分で生きていく力」というものを主張した参加者がいました。なるほどと思ってよくよく聞いてみると、「自分で生活の糧を調達できる力」ということで、さらに突き詰めると「農業する力？」とでもいうべく話でした。予想だにしない意見で面白いものでした。



各グループのプレゼンテーション後、さらに2つの質問をしました。

これらの要素の中で、授業でもっとも養成できているものはどれですか。
また、養成できていないもの、難しいと感じるものはどれですか。

ディスカッションではいろいろと意見は出てくるものの、では、それを普通の授業で意識できているか、それらの要素を組み入れて授業展開できているかと言えば、難しいものがあります。コミュニケーションに関することはアクティブラーニングなどの台頭もありますし、英語で言えばコミュニケーション型な授業活動がより活発になる中で、一定程度は取り組めている部分もあると思います。一方で、課題解決、思考力、異文化理解などは、なかなか普通の授業の中でフォーカスしきれない部分かもしれません。

今後は、どのようにこれらを意識し、教育活動に取り組んでいくかということを議論していきたいですね。最後に、以下のスライドのとおり、私の設定するスキルやマインドを共有しまして、幕を閉じました。



C 次回に向けて

次回は、6月3日に宮城県の学校から依頼されている中2グローバルキャリア講演のデザイン作りをテーマに皆さんと議論をしていきます。その後、また今回のグローバル人材像のテーマに戻り、より議論を深め、さらには「授業活動にどのように反映させるのか」という点まで進んでいきたいと思ひます。

D Review and Reflection

今回は、橋口先生のレビューに対して、私がメールで返信した内容も掲載します。第7回勉強会のディスカッションにもしたいと考えています。

松木先生

「グローバル時代に必要なスキルやマインド」のグループワークについて、皆さんの発表を聞いて感じたことが2点あります。

- ・スキルは時代によって変化していく(語学力、変化に対応する力、創造力など)
- ・マインドは時代が変わっても変化しない(前向きな姿勢、誠実さ、アイデンティティーなど)
全て当てはまるわけではないのかもしれませんが、こういった共通点があるのではないかと感じました。

私はこれまで教育界に出てくるキーワードを本で読んだり、ネットで調べたりと自分なりに向き合ってきました。今回のテーマである「グローバル」もその一つです。グローバルについての言葉の定義や知識が曖昧であったときは、とりあえずグローバルについて知ろうとすることを目標としていました。しかし、勉強会を通して、グローバルという言葉を知っただけではまだ足りないことに気がきました。本当に大切なのは、それを知った後。グローバルという知識を使ってどのように日々の教育活動に活かしていくか、どのように・どのような子どもたちを育てていくか考え実践することが本当のスタートなのではないかと感じました。正解がない中でどこを目指し、何のためにどう変化したいか、具体的に想像し創造していきたいと思います。

本勉強会では「グローバル人材」という言葉の定義がどのような内容になりうるか、というところに多くの議論が展開されました。グループワークでは、多様な価値観が飛び交い様々な人種が行き交う国際化の進む世界の中で生きぬいてゆく上ではどのような素質が必要になるか、各々話し合い意見を集約していきましたが共通している要素は「異なるものを受け入れる姿勢」や自分の周囲に興味を持ってかかわってゆくような「積極性」や「社交性」、自他の考えをうまく交換し合うための「コミュニケーション能力」や「言葉の運用力(言語能力、語学の堪能さ)」等が挙げられるように思えます。さて、今回の勉強会の内容は昨今の教育業界でも特によく話題になるところかと思いますが、その中で自分自身が抱いた根本的な問題意識があります。

それは、国際化の進む世界に合わせて先のような素質を持ち合わせた人を育てることを「グローバル教育」とした場合、それがそもそも「教育」と呼ばれる営みなのかということです。例えば、いわゆるグローバル人材の素質を先に述べたような「異なるものを受け入れる姿勢」「積極性」「コミュニケーション能力」「言葉の運用力(言語能力、語学の堪能さ)」の四つとした際、その「グローバル教育」を施す者はその決められた理想像に向けて被教育者を導き陶冶してゆきます。しかしながら、このように第三者によって決められた鑄型のようなものに、子どもたち各個人が抱えている多様な内面がはめられてしまうようなはたらきかけが強い場合、それは学ぶものの個性や特殊性を尊重し成長を助けるような「教育」(education)と言うよりも、それらを排するようなより他力的な強制力の強い「教化」(edification)になりがちです。

このように昨今唱えられる「グローバル教育」なるものが、自分をとりまく周辺世界の「多様性」を受け入れられるような人を育てるために、詳細な内容が何であれ、異なるものを受け入れる姿勢や積極性、コミュニケーション能力や「言葉の運用力(言語能力、語学の堪能さ)」というような一定の規準を満たしたような「画一性」を人に、「教育」に要求するところにはどこか違和感を感じずにはいられません。そのように多様なことがらを受け入れられるような器用な人を育てるために画一的な素質を求めるようなグローバル「教育」ならぬグローバル「教化」は、結局その素質を持ち合わせないものを非グローバル人材というカテゴリーにあてはめて差別化を助長するような危うさを持っているとも言えるでしょう。「グローバル」、「グローバル人材」の意味内容を定義する試みも意義のあることかとは思いますが、「教育」というそもそもの営みが何なのかという根本的な議論を進めることは更に新しく興味深い視座を与えるのではないかと考えます。

結びに、この場で自分が感じた問題性に同じように通じる指摘として Diane M. Hoffman がその論文 *Individualism and Individuality in American and Japanese Early Education: A review and Critique* の結論部でアメリカの教育の問題性について述べた一節があるので紹介しておきます。

Inner conformity in the guise of outward diversity: that may be the true problem of American education today.

関より 橋口先生への返答

レビューありがとうございました。非常に重要な視点であり、せっかくなので私の方からディスカッションの返答をさせていただきます。

私は、グローバル化は間違いない流れであり、グローバル教育はますますその重要性が増して来ると思っています。少なくとも現場の日本においては必須の流れだと感じています。また、私はグローバル教育をコンテンツ、プログラムとしてだけでなく、ビジョン、アプローチ、価値体系として考えており、その感覚は今後みなさんと共有していきたいと思えます。

その中で、橋口先生の提起してくれていることは、私も含めてみんなの課題であり、おそらく橋口先生自身にとっても探求する課題なのだと思います。今回の提起とグローバル教育の促進が二律背反という形で捉えるのではなく、その課題を踏まえた上でグローバル教育をどう組み立てて行くのか、ということが重要なのだと感じました。

グローバル化は世界共通の事象であるのに、グローバルとここまで急き立てられるように声をあげているのは日本ぐらい。あとは、韓国ですかね。これは現実的には、英語のレベルと、経済力、政治力の縮小が背景にあると言えます。

そもそも、その始まりも違います。世界は、難民や移民を多く抱え、その共生という観点からグローバル教育が多く、どちらかというと異文化理解、多文化共生教育です。日本は、グローバル経済と英語コンプレックスに圧迫されて始まったグローバル教育といっても過言ではないかもしれません。今後はおそらく、インバウンド移民や労働者、観光客受け入れという課題もますます圧迫感をますますでしょう。そういう意味では、日本のグローバル教育は、世界の中でも異質なのかもしれません。

教育と教化の議論については、どう捉えるかは難しいところだと思います。それらが橋口先生が言葉で示すほど現実的に違うのかどうかも含めて、あり方を考えることができれば面白いでしょう。私は一定の価値体系はあるべきだと考えています。これは平和教育、道徳教育、女子教育の意義にも関わる議論になりますが、一方で、価値観を構築する力というものは、生徒主体に養っていかないと、おっしゃる通り、プロパガンダ的な教育になりかねないとも思えます。

そもそも教育とは何か、ここも突き詰めれば色々な議論になるでしょう。教育って、何なんでしょうね。ここが教育哲学的な議論と教育実質主義的な議論とダブルスタンダードで考えていくのか、もしくは統合できるような議論をしていくのか、いずれにしても両アプローチから柔軟な考え方が必要だと思います。